

軍 事 史 学

第47巻 第1号

巻 頭 言

歴史研究のための、レファレンス専門施設の必要性

今日の歴史研究は、次々に公開される内外の公的資料と、発掘が続く在野の資料の蓄積によって、大きく進んでいると見て良い。しかし、その反面、あまりに資料が多いために、これを十分に調査検討することが、かえって困難になっている側面も少なくない。研究者が、膨大な資料の前にして、資料の調査に充てることの出来る時間の過少を嘆くことは珍しくないのではないか。問題は、必要な資料を、如何に能率良く確認し選択し得るかに掛かっていると見える。

当学会の会員は、多くが研究者であると思われるが、筆者のように基本的に司書であり、職歴の殆どを資料館、博物館で勤務してきた人間にとっても、こういった問題に関しては、研究者と同様の困難を感じている。

元来資料館、博物館の本質的な業務は、資料の収集、保存管理、提供であり、更に、利用者からの調査依頼に応えるレファレンス業務ということになるが、このレファレンスに於いて、資料の内容情報が重要になる。研究者も苦勞して遠方の資料館まで行っても、資料に対する事前情報が充分でないために、期待した内容のものではなく、時間と経費の浪費となることも珍しくない。このような状況を解決する方法はいくつか考えることが出来る。現在インターネット上では、アジア歴史資料センターのように、資料そのものを画像で公開するケースや、多くの大学図書館の蔵書検索を行うことが出来るウェブキャットのようなサイトが存在し、調査の助けとなっている。しかし、なかなか完璧とは言えない。書名、資料名がわかっても、資料の内容を窺うことは出来ないからである。

しかし、筆者としては、レファレンス専門の施設を創設することで、このような現状をある程度解決出来るのではないかと考えている。

筆者が考える具体的な施設の内容は、ここで述べる紙幅を持たないが、簡単に言えば、アジア歴史資料センターが公文書の公開を主としていることを踏まえ、これ以外の資料及び図書を対象とし、所在情報ばかりでなく、目次、索引などをテキストデータ化することによって、資料の内容にまで踏み込んだ資料検索システムを構築するのである。こうした研究支援施設の設立及びデータベースの公開によって、研究者は速やかに必要な資料に到達することが可能となるのである。長年レファレンスの現場にあった筆者の、司書としての夢の一つであるが、歴史研究の更なる発展のためにも、いずれ実現されるべきと考えている。